

死に際の5つのパターン

死にゆくときの自分の姿など考えたくないものです。しかし、人は必ず死にます。いかに健康管理に気を使っても、いつかは必ず死ぬのです。

その死に際のパターンを考えると、将来に向かって、自分の身体をどのようにコントロールするべきかが見えてきます。

死に際のパターン

- ① 急死
- ② 健康トラブル→不自由 → 介護 → 寝たきり → 肺炎 → 死
- ③ 衰える → 家に閉じこもる → 食べられなくなる → 死
- ④ 手術で取り切れないガンが発覚する → 闘病 → 数ヶ月から数年で死
- ⑤ 全身に広がったガンが発覚する → 1～2ヶ月で死

人は必ず、上記5つのうちのどれかのパターンで死にます。この5つのパターンをよく考えていくと、「人は必ず死ぬのだ」ということが見えてきて、そのうち死ぬことへの過剰な恐怖がなくなります。いつも人が死んでいく現場を見ることになっていた戦国時代は、織田信長のように「死のうは一定」と叫んで、死ぬことを恐れませんでした。

死ぬことへの過剰な恐怖を低下させ、死は必ず訪れるのだ、という覚悟を心の中に醸成することは、日本の医療社会において、末期医療に適切な進歩をもたらすことと思います。

さて、あなたは上記5つのうち、どのパターンで死ぬことを望みますか？
ちょっと考えてみてください。
